

<https://sophiakai.net/economyan>

経済学研究科の現状と課題

経済学研究科委員長 蓬田守弘



2023年4月より研究科委員長を務めております蓬田守弘(よもぎだもりひろ)です。国際経済学が専門で、学部と大学院では国際貿易論を教えております。平素より経鷲会の皆様には、学部・研究科にご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。今回は貴重な機会をいただきましたので、経済学研究科の最新情報をお伝えできればと思います。

2024年4月時点で、経済学研究科には50名の学生が在籍しています。修士課程では、経済学専攻と経営学専攻それぞれ約20名が在籍し両専攻全体で42名、博士課程では、経済学専攻が7名、経営学専攻が1名で合計8名の学生が学んでいます。最近是中国からの留学生が多くを占めていますが、日本人学生やバングラデシュからの留学生もいます。

東大や一橋、早稲田や慶應の大学院に比べると、上智の経済学研究科は小規模です。そのため、修士課程では、一人の教員が指導する大学院生も平均すると各学年に1名から2名ほどに抑えられています。小規模であるがゆえに、学生一人一人に目の行き届いた教育ができるという上智の伝統が継承されています。博士課程は、各専攻で学年当たりの定員が2名と少ないため、全体でも学生数は多くありません。博士課程では、フルタイムの学生だけでなく社会人学生も学んでいます。昨年度は、経営学専攻から社会人の博士号取得者を送り出すことができました。

コロナ禍によって、経済学研究科も影響を受けました。中国からの留学生が来日できなかつたこともあり、志願者が大きく減少しました。しかしながら、幸いなことに最近では志願者数も徐々に回復傾向にあります。2023年に実施された入試では、修士課程で経済学専攻が60名、経営学専攻で119名と、両専攻ともに志願者数が前年より大きく増加しています。

2024年度より、上智大学は国の支援事業である「次世代研究者挑戦的研究プログラム (SPRING)」に採択されています。SPRINGプログラムは、次世代の研究を担う有望な博士課程の学生を経済やキャリア形成などの面から支援する目的で創設されました。経済学研究科でも、博士課程に在籍するバングラデシュからの留学生が、本プログラムの奨学生に採用されています。SPRINGプログラムなどの支援によって、博士課程へ進学する学生が増えることを期待しています。

海外の大学との連携に向けた動きも活発になってきました。経済学専攻では、台湾の国立政治大学との間で、修士課程におけるダブル・ディグリー・プログラムを検討しています。経営学専攻でもイギリスのダンディー大学より研究面での連携提案がありました。さらに、上智大学は2024年4月にインド工科大学デリー校と連携協定を締結しました。インド工科大学といえば、IT分野の人材輩出で世界的に有名ですが、経済学や経営学の大学院プログラムも有しています。7月には協定締結を記念して上智大学でインドウィークが開催され、経済学研究科教員とインド工科大学の経済・経営分野の教員による研究協力に向けた顔合わせも行われました。

研究や教育での海外の大学との連携は、経済学研究科に大きなメリットを生む可能性があります。大学院のダブル・ディグリー・プログラムでは、優秀な海外の学生を上智に受け入れることや、上智の学生が海外で学ぶ機会を得ることができます。しかしながら、経済学研究科にとって、教育面での海外の大学との連携はチャレンジです。教員は国際的な学術雑誌に成果を発表するなど、国境を越えた研究活動には積極的に取り組んでいますが、大学院の講義や研究指導は主に日本語で行われています。今後、海外大学と教育の連携を進展させるには、経済学研究科でも英語で学位を取得できるプログラムの創設を検討する必要があります。教員や職員の数が限られている中で、日本語と英語の教育プログラムをどのように両立できるのか。経済学研究科で検討している課題の一つです。

天空の宗教都市チベットの思い出

木村正文 (1974年 経・経)



私は1974年経済学部経済学科卒の木村正文です。卒業後伊藤忠商事に入社してから縁あって1979年香港大学、翌年南京大学に留学、その後一貫して中国の鉄鋼ビジネスに関わり、都合22年間中国各地に駐在しました。その中で以前から興味を抱いていたチベットに2010年の夏に念願の気ままな一人旅をしました。そして2017年には2度目の訪問をすることが出来ました。今回は私が実際に訪れて感じたチベット事情を紹介したいと思います。

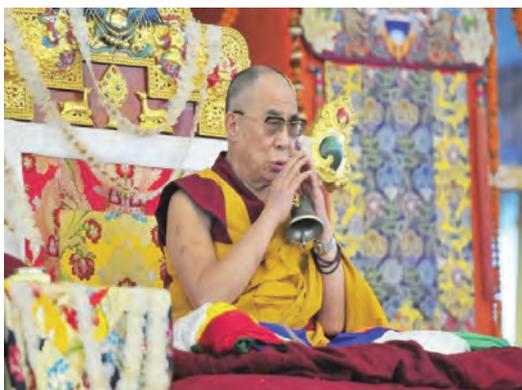
皆さんチベットというとどんな印象を持っているでしょうか。恐らく頭に浮かぶのは世界の最高峰エベレストやダライラマ14世のことかも知れませんね。実は私もチベットを訪れる前は同じような印象を持っていました。只、過去に映画セブンイヤーズ

インチベットを観て刺激を受けたこと(ブラッドビット主演)、チベット仏教の信者が今の時代でも五体投地をしているということ、そして青藏鉄道という世界一の高度(海拔5千M)を走る鉄道が開通したということで一度自分の目で見てみたいという願望があって、思い立って一人で計画を立て現地ガイドを雇ってチベットの地に入りました。その結果、すっかりチベットに魅せられて7年後の2017年には妻と一緒に訪れることになりました(この時は既に個人旅行はご法度となり現地ガイド付きツアーで自由行動は制限されました)。

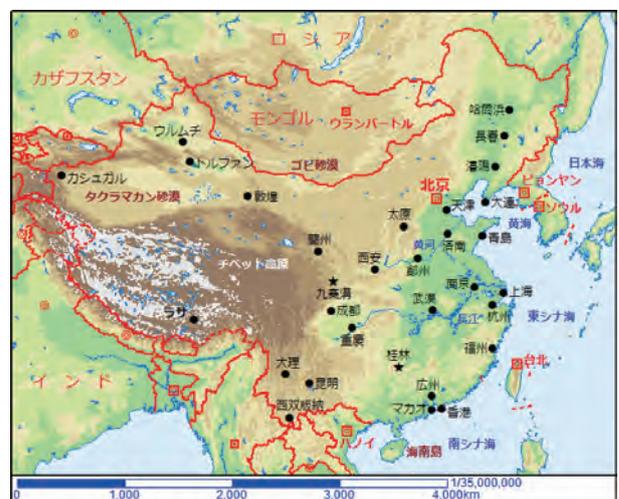
チベットへの道のりは幾つかの選択肢はありますが、外国人の入境は制限されておりチベット自治区政府の許可が無いと鉄道や飛行機に乗ることも出来ません。2010年に上海からラサに向かった時は飛行機で重慶まで行きそこで乗り換えて重慶—ラサのフライトでした。いきなり標高3700Mのラサに到着した為、不覚にも高山病に罹ってしまいました。2度目の2017年ツアーは東京から成都直行便で入国、その後成都から青海省の西寧に国内線フライトで行き一泊、翌日憧れの天空列車青藏鉄道でラサに向かいました。所要時間23時間でしたが車内には酸素吸入設備もあり、これで安心と思いきやラサに到着したらその夜にまた高山病に罹ってしまいました。現地の病院から派遣された医師から点滴を受けて何とか回復することが出来ましたが大変苦しかったことを覚えています(その時の血中酸素は何と76%まで下がっていました)。



世界最高峰チョモランマ



ダライラマ 14世



チベットへの経路

治療代は1800人民元＝日本円約3万円、7年前は300人民元だったので約6倍でした。

ここでチベットの概況を簡単に述べたいと思います。中国の西南に位置する「チベット自治区」は面積120平方キロですが実際には青海省、甘肅省、四川省に広がるアムド地区、カム地区にもチベット人は分布しています。総面積は250平方キロ（日本の約6.6倍）チベット族総人口約600万人、内自治区200万人。主要経済は農業、畜産を中心としています。

2度の旅行を通じて私が感じたチベット人の印象は下記の通りです。

- 1) チベット人は寡黙、性格は比較的温厚で信心深い。顔色はやや浅黒いが、日本人と顔立ち、体形も似ており親近感を覚えます。
- 2) チベット人の多くは生きている内に功德を積みば来世はきっと幸福になれると信じています。（輪廻転生）
現世に祈る多くの中国人とは対照的な人生観を持っています。

- 3) 家族や親族を大切にしており、自然との共生を尊び、動物や植物にもやさしく大事に扱います。さて2012年中国駐在から帰国して知り合いになったチベット人のロディー・ギャツォ氏の話を紹介します。彼は「ぼくの村は天空にある」というドキュメンタリー映画を作った監督で現在は日本人女性と結婚して日本に住んでいます。彼から教わったふしぎ発見です。

<<何故チベット人には苗字が無い？>>

<<何故チベットにはお墓が無い？>>

答えは後述しますが、チベット人の心の中にはチベットの大自然とチベット仏教が深く刻まれており、人間に限らず自然に対しても傷つけない、殺さない、助け合うという精神が見受けられ、ソフィアの「FOR OTHERS, WITH OTHERS」と相通じるものがあります。

現在、チベット自治区は中国政府の管理下であり経済的には中国の恩恵を受けていますが、チベット固有の文化例えばチベット語での教育などは制限を受けているところがあります。歴史を辿れば中国とは良好な関係にあった時期もあり7世紀には皇帝が嫁がせた文成公主がチベット仏教の総本山ジョカン寺を建立しています。また清朝の皇帝もチベット仏教を奨励していた時期もあり、今でも内モンゴル等東北地方にはチベット仏教を信じている人が多くいます。

省都ラサにあるポタラ宮殿は世界遺産としてチベット仏教にとって聖地であり、その威容には常に圧倒されます（写真参照）。



ラサ葉王山



ポタラ宮殿

さて、それでは2つのふしぎ発見の答えですが

1. 何故チベット人には苗字が無い？

⇒これは昔チベット人にも苗字があったようですが、権力者達はその苗字を子孫に引継ぎ身分制度のような弊害が生じたことで苗字を廃止して平等な社会を作ろうとしたものです。

2. 何故チベット人にはお墓が無い？

⇒チベット仏教を信じる人は今でも伝統的な鳥葬が最も好ましいと考えており、死ぬ時は身体も物体に過ぎず鳥の餌になって役に立つのが理想で心は輪廻転生で自然に戻ると信じています。お墓を作り先祖を奉るのはいわば儒教思想で、本来の仏教にはその習慣はありません。チベット人は死んだら自然に帰るという信念があり、先述のロディー氏は日本に来てあちこちにお墓があるのを見ると何故そんな貴重な土地をお墓にするのか疑問に思うと同時に気持ち悪くなるとコメントしていました。

以上、駆け足でチベットを語って来ましたが、今でもチベットには常に興味を持っており、あの天空の大自然とチベット文化が今後も残ってゆくことを心より祈っております。一方で1959年インドのダラムサラに亡命したダライラマ14世も来年90歳を迎える為、その後の混乱が心配されます。どうか平和が保たれてチベットの人々が幸福に暮らせることを祈っています。

（元伊藤忠商事(株)、ソフィア会国際委員）

商社マン奮闘記

小野寺 健 (1972年 経・経)



伊藤忠商事で中近東担当へ

学生時代は、高宮先生の訓導によりゼミナールの他、合宿にも参加させていただきま

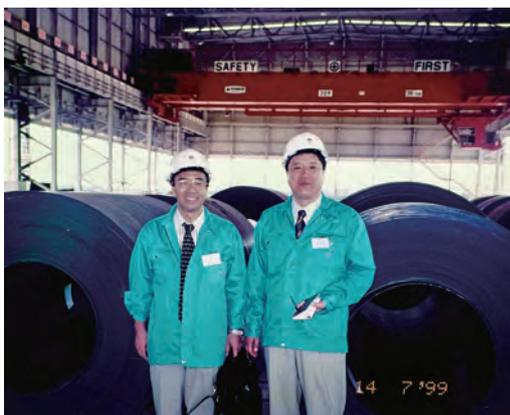
した。卒業後は、先生の推薦で住友化学への入社も決まっていたのですが、海外生活に憧れて、伊藤忠商事に就職しました。高宮先生には陳謝に伺いましたが、叱られるどころか、逆に希望の門出だと、応援して下さいました。

伊藤忠商事では繊維部門を希望しましたが、私の経歴（八幡生まれ釜石育ち）から、輸出鉄鋼部に配属されました。

入社後すぐに中近東担当となり、ベイルートやダンマン、バグダッドとの商戦に参加し、初めての出張はベイルートからバグダッドでした。チグリスユーフラテス河に沈む夕陽を眺めながら中東の専門員になる事を誓いました。そして、新日本製鉄や川崎製鉄の表面処理鋼板や電磁鋼板の拡販に尽力しました。

中近東からアメリカへ

1975年、上智大学のクルトールハイムで挙式し、秋には長女も生まれました。その2年後、仕事で関係があったイラク、バグダッド駐在を命じられました。当時から中東は紛争地域であり家族帯同は厳しい地域だと認識していた事と、初孫を喜んだ義父母の心配もありましたが、最終的には新日鉄鉄鋼メーカーからの送別会も終わり、仙台の父母も上京し、身内の送別の宴も予定していました。



1999年4月7日 タイ電炉 SSP 輸出商談 (左が本人)

その前に会社に行き、駐在者恒例の役員への挨拶回りをした時、最後にお会いた役員から顔色が悪い事を指摘され、健康管理室での検査を命じられました。そこで高熱(38.5度)と診断され、駐在は保留となりました。帰宅して家族に事情を説明しましたが、驚きもありながら、皆一様に安堵の表情をみせた事を思い出します。

その後、インドネシアから戻った新任の上司によりバグダッド駐在は中止、新しくサンフランシスコ駐在に変更になりました。当時、仲間内での駐在地評価のワースト3B、ベスト3Sは、3Bが、ボンベイ、バンガラディシュ、バグダッド、3Sは、サンフランシスコ、シドニー、シンガポールでした。私は、体調不良に気づいた役員と新任上司のお陰で、3Bから3Sへの大転換となり、その後の人生は大きく変わりました。

1978年、勇躍、サンフランシスコに赴任しました。初めてゴールデンゲート橋を渡った時、日本は第二次世界大戦で無謀な戦いをしたのだと実感しました。サンフランシスコで次女が生まれ、その後、ヒューストンに移駐しましたが、一旦、日本に戻って、再びシカゴの駐在となりましたので、北米だけで15年の長い駐在となりました。シカゴでは三女が生まれ、三人娘の父となりました。

サンフランシスコ時代は日本の高炉ミルの新日本製鉄、住友金属からの対米輸出、シカゴ時代は日本製鋼、電炉の雄・東京製鉄からの対米輸入に加え、ロシアの鉄鋼ミル、セベスタールからの開発輸入に携わり、1991年のトライアル10トンから、いくつかの辛酸を乗り越えて、熱延鋼板中心に1995年には50万トンを入力する一大事業に発展



1999年5月19日 シカゴ伊藤忠応接室
絵は本人作 (右が本人)

しました。後にロシアの開発輸入に携わった仲間（スペイン人）は、スペインで鉄鋼貿易を中心とする会社を設立しましたが、私がシカゴを離れてシンガポールに移駐した後も、家族ぐるみの付き合いがあり、彼の娘の結婚式にはマドリッドまで家族で出かけ、私の長女の結婚式にはそちらの家族が参加してくれました。

1977年、シンガポール移駐後、私は伊藤忠商事を辞して、現地法人の役員として迎えられましたが、CVACERO (www.cvaceros.com) のクレセンテ社長とは現在も仕事仲間であり友人です。当時の日本の鉄鋼業は高炉五社、新日本製鉄、川崎製鉄、日本鋼管、神戸製鋼、日新製鋼が独占していましたが、五社のミルの幹部とはよい関係を築く事ができました。電炉ミルの独立系の東京製鉄とは、ヒューストン時代からの長い付き合いとなりました。

誠心誠意がビジネスの基本

シンガポールに移駐してからは、ロシアのセベスタール製の鉄鋼製品をアジア各地に販売するため、タイ、インドネシア、ベトナム、マレーシア、インド各地を廻りました。日本を経由しない三国貿易でした。2000年には東京製鉄が熱延の輸出を開始し、ロシアの鋼材の販売先として東京製鉄の熱延を販売し、最盛期は30万トンにもなりました。当時、新日本製鉄は東京製鉄の輸出を快く思っていなかったため、当時の伊藤忠本社の課長から、新日本製鉄の新任課長が談判に向かう、との報告を受け、詰問を覚悟しました。ところが実際にお会いして、彼の最初の赴任先が私の育った釜石で、祖父や父の代から新日本製鉄に奉職していた事を話しているうちに、次第に態度が軟化し、東京製鉄の件は条件を協議して合意を取りつける事ができました。私は、すぐに東京製鉄本社に出向き、役員に事情を説明の上、東京製鉄からも了解をいただきました。誠意をもって話をし、頭を下げた事で、新日本製鉄と東京製鉄の



2024年7月25日 ベトナムの日本製鉄 JV CSVJ 訪問
(右から二人目が本人)

双方から支援をいただく事になりました。

この経験から、ビジネスの基本は「誠心誠意」が重要と認識しました。その折の新日本製鉄の新任課長はその後、輸出部長となり、ロシアの鉄鋼を共同 work したスペインの CVACEROS クレセンテ社長をご紹介させていただき新規に中近東向け鋼材輸出を支援していただきました。2019年、彼は新生、日本製鉄の初代社長となり、赤字で呻吟していた会社を2年でV字回復させインドでの合弁事業、タイでの電炉ミル買収、2兆円を投資し社運をかけてのUSスティールの買収等、グローバルなビジネス展開を実践されています。私は、今でも、日本製鉄や東京製鉄の幹部との仕事を担当しており、最近では、シンガポール時代の仲間のアイジャス社長とともに、日本製鉄のベトナムのジョイントベンチャーからの北米輸出を手がけました。

今年、喜寿を迎えますが、不思議なご縁に恵まれ、家内と三人の娘とその家族にも恵まれ、人生、感謝以外の何物でもありません。また、二人の娘が、昔、蔡國華画伯のモデルを務めた事で、画伯から本格的指導を受け、年に数回、個展を開く楽しみも増えました。



2008年2月23日 初めての母との銀座親子展
従姉とその家族(右から二人目本人)

最後に、高校時代の恩師から教えられた座右の銘、サムエル・ウルマンの青春の詩を紹介したいと思います。「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。

優れた創造力、逞しき意志、炎ゆる情熱、怯懦を却ける勇猛心、安易を振り捨てる冒険心、こういう様相を青春と言うのだ。

年を重ねただけで人は老いない。理想を失う時に初めて老いがくる。(中略)

人は信念と共に若く、疑惑と共に老ゆる。人は自信と共に若く、恐怖と共に老ゆる。

希望ある限り若く、失望と共に老い朽ちる。(後略)」

(CV SCEROS Spain Madrid GM 兼日本代表)



E-AGLE Network

中井麻理乃さん



Thank you for selecting me as a scholarship recipient. Last summer, I took part in a Chinese language program at the Chinese University of Hong Kong that has a partnership with Sophia University. It was an intense study abroad experience where my language skills improved significantly. I gained the confidence to speak a language that I am still learning, which was a challenge at first. Even though my Chinese was not perfect, the confidence to speak up allowed me to communicate effectively with Hong Kong locals, inspiring me to continue learning and using Chinese in the future. After graduating from Sophia University, I'll be joining an asset management firm with offices operating overseas, mainly in Asia. There, I hope to enhance my Chinese language skills further and utilize them in the business world. I am excited for an opportunity to work as a bridge between Japan and other Asian countries with my new language ability.

この度、私達竹内ゼミは微小確率における市場参加者の行動分析という論文によって経鷲会奨学基金を受賞し、多くの候補者の中から私達を選ばれたということは大変喜ばしいことであり、このような場を金銭面や時間面で支援して頂いた経鷲会の方達への感謝を申し上げたい。

受賞する事となった論文では、市場参加者が稀にしか起こらないだろうと予想する微小確率というもの市場に存在し、その市場において微小確率が起きた後に市場参加者がどのような行動選択をするのかを実際の市場データを用い、私達の専攻である計量経済学を用いてデータ分析と

解釈をし、結論づけたものである。結論としては市場参加者は微小確率が発生した場合、微小確率の事象とは独立した次の行動選択をする際に不合理な選択を取ってしまうことが結論づけられた。

こちらの論文は RIS2022 大会においても MNP 賞を受賞し、インターネット上で研究のアウトラインを述べた動画もアップロードされているので興味を持たれた方はそちらもご覧下さい。



齋藤大樹さん

経済学部・経 奨学生か

(学年、礼状の内容は)

この度は、経鷲会奨学基金に採択いただき、誠にありがとうございます。私は、大学に通いながら映像ディレクターとして活動しており、主に企業のプロモーション映像やWEB CMの映像のディレクションをしています。昨年は、ディレクションした映像がWEB CMとして、配信動画サービスである「TVer」で2週間にわたって放映されるという望外の結果を得ることができました。映像ディレクターとして初めて大きな作品を残すことができ、一視聴者として「TVer」を視聴していた際に、自分が監督した映像が広告として流れてきた時には、胸が熱くなったことを今でも鮮明に覚えています。生成AIの技術革新や普及によって映像制作の方法は今後、大きく変わっていくと思います。時代に取り残されることがないように、時代の流れに柔軟に対応しながらも、作品へのこだわりは忘れず、経鷲会のご支援を励みに今後も活動をしていく所存です。そして、上智大学のプロモーションに寄与する映像を制作することが今の目標です。改めて、この度はこのような機会を頂戴し、誠にありがとうございました。



手島 佑さん

経鷲会の皆様、この度は貴重なご機会をいただき、ありがとうございます。川西諭ゼミでは、企業や法人が抱える課題を協働し、解決していくPBL (Project Based Learning) に取り組んでおります。中でも私たちAチームは、単細胞緑藻で、その栄養豊富さに特徴のあるクロレラを取り扱うクロレラ工業株式会社様と協働し、「若者のクロレラに対する認知度向上」に取り組んで参りました。その背景と致しましては、



坂上かりんさん

チームメンバー全員が、「食を通して上智大生を健康にしていきたい」という想いを持っていた点が挙げられます。具体的な施策と致しましては、大学内のキッチンカーでのコラボメニューの販売や、クロレラに関する動画の作成等を行い、最終的には、上智大学内でのクロレラの認知度が約20%上昇するという結果を得ることができました。一方で、学生の健康意識向上のためには、更なる努力が必要だという点も活動の中で痛感いたしました。そこで今回いただいた奨学金は今後のゼミでの活動に使用させていただきたいと考えております。改めて、経鷲会の皆様、この度はありがとうございました。

この度は、経鷲会奨学金に採択いただき、誠にありがとうございます。チーム Eureka 4 名を代表して御礼申し上げます。私たちは、Bloomberg ESG 投資コンテスト 2023 に参加し、弊学初となるレポート特別賞の受賞を達成しました。当コンテストは、チームを組んで ESG 投資ファンドを組成し、そのポートフォリオ及びレポート内容を競うものです。例年、金融関連のゼミ生や、大学院生の受賞がほとんどだった中、私たちは金融初学の学部 1,2 年生のチームでの挑戦となりました。振り返ると課題も多かったですが、初学ならではの視点と行動量によって今回の成果を得ることに成功したと思っており、誠に光栄でございます。

これらの成果も、ご指導くださった杉山佳子教授を初めとする東京証券取引所の皆様のご支援がなければ達成することは叶いませんでした。この場を借りて御礼申し上げます。今後も引き続き、上智大学に貢献し経済学部模範となる学生を目指して参ります。



中野 陸さん



出口萌衣子さん

この度は、経鷲会奨学基金のご支援を賜り、深く御礼申し上げます。我々は川西ゼミに所属し、主に行動経済学やゲーム理論を学んできました。学習のアウトプットとして、迎賓館赤坂離宮をクライアントに選定し、「若年層の認知度向上」及び「次世代への継承」という 2 点を目標に、課題解決に取り組みました。特に、ゼミの目標である「地域の活性化」に焦点をあて、迎賓館・四谷小学校・上智大学という三者の連携に注力しました。実際の授業や見学に基づき、

地域の子供たちが地域の宝である迎賓館について学ぶことができるよう、マニュアルを作成いたしました。迎賓館の皆様にもご好評をいただき、持続可能な課題解決に繋がったと自負しております。微力ながら、四谷エリアの発展に寄与できたことを嬉しく思います。

ゼミ活動をはじめとした経済学部での学びは、今後の人生に多くの選択肢を与え、彩りを添えてくれることでしょう。来春からの新たな旅路でも、学びに対する好奇心を大切に、精進してまいりたいと思います。

改めまして、この度は経鷲会奨学金を授与いただき、誠にありがとうございました。

鷲会奨学基金 らの礼状

2024年2月時点のものです

この度は、経済学部・経鷲会奨学基金に奨学生として採用していただき、誠に感謝申し上げます。私たちは、地域や組織の活性化をテーマとして課題解決型学習に取り組む川西ゼミに所属しており、今年度は上智大学の位置する紀尾井町地域の活性化を目指して、“紀尾井町を繋げる”を目標に活動いたしました。

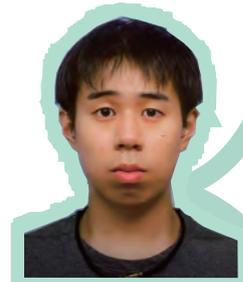
施策として紀尾井町クリスマスイベントを企画し、東京ガーデンテラス紀尾井町様やアトレ四谷様など複数の企業や、番町小学校や麴町中学校、上智大学の学生、そして聖イグナチオ教会聖歌隊など、多くの方々の協力を得てイベントは成功を遂げ、紀尾井町全体が繋がったと実感いたしました。今回のイベントをきっかけに、紀尾井町地域により深い繋がりが生まれれば、嬉しいです。

私たちの活動は他から評価されるために行ったものではありませんが、今回こうして評価していただけたことを大変誇りに思っております。この度は誠にありがとうございました。



家田菜々子さん

Thank you for selecting me for the Keishukai Scholarship. I am delighted to have been chosen for this scholarship, as it was one of the goals I wished to achieve by the end of my undergraduate studies. I spent the fall semester of my third year on a two-semester exchange program in the United States at the University of Minnesota-Twin Cities, and my efforts there and current efforts have been highly commended. Specifically, I took a graduate-level sports marketing class, which I had never taken in Japan, but had always been interested in, and received the highest grade of an A. I was also the first Japanese exchange student to have joined an internship position with JSA (Japanese Association Minnesota), which aims to promote Japanese culture at the University of Minnesota. While studying abroad, I was greatly inspired by the high level of international students, especially in academics. After returning to Japan, I studied under Dr. Sayaka Nakamura as her only student and held constructive discussions with her about micro-econometrics every week. I will continue to do my best with the high standards expected of a student receiving this scholarship.



河野耀善さん

水彩画と私、そして島村和代水彩画展 2024

島村和代 (1983年 経・営)



私が、初めて水彩画を描いたのは2010年の初春でした。瀬戸内海を見渡す綾部山梅林で風景画を描きました。それは、一目2万本と言われる梅林と家島や小豆島が浮かぶ瀬戸内海の自然の景色を描いた作品です。その絵を上野の森美術館の「日本の自然を描く展」に出品すると、入選しました。それで、うれしくなって気をよくしてしまいました。尊敬する上村敦之画伯が審査委員長をなさっていたのが出品した理由でもあります。この絵画展には2021年まで毎年出品入選しました。

陽の光、爽やかな風、自然に囲まれて描いていて楽しいです。私にとって描くことは、ささやかな存在証明です。

いろんな人に教えていただきました。お返しに私にできることは何だろうと考えた時、ふと水彩画教室をしようと思立ちました。描けるようになると、できないことができるようになるって、新しい世界が広がります。教室のみなさんと一緒に、少しずつ頑張っています。今のところ初心者と高齢者とお子さまたちの教室です。絵の具は、不透明水彩絵の具(gouache ガッシュ)を使っています。

では、なぜ不透明水彩なのか？

初心者が始めるのによい絵の具として選びました。



美術館教室

小学校で一番初めに使う絵の具が不透明水彩です。不透明水彩は、高品質で美しい色が揃った絵の具です。しかも扱いが簡単です。透明水彩より早く乾き、乾いてもよく水に溶けるので、アクリル絵の具のように乾燥してしまうことを気にする必要がありません。油彩のように重ねて描くこともでき、手入れも持ち運びも簡単です。また、水彩紙の水張りなど不要で、「描きたい!」と思ったらすぐに描き始められます。途中で変えたくなくなったらずぐ、上から直していくことができます。他にも利点は多々あります。教室では、このようなこともお話ししています。

とは言っても、透明水彩の鮮やかな透明感のある色彩も捨て難いですよね。私は、風景画は透明水彩絵の具で描いています。描き直しのできない難しさ、怖さもあります。でも、水と絵の具と紙と仲良くしながら描いている過程が好きです。時には、格闘しながら描いています。完成した作品は、日本画も油絵も水彩画もどれも好きですが、水彩画のこの描いている過程が好きなのだと思います。自然の中で、また花を観ながら描いている静かな時間が好きです。



大学を卒業して初めにした仕事は、児童英会話教室でした。大学時代に四谷の日米会話学院に夜間3年間通いました。教室をしながら服飾の勉強をして、心齋橋の老舗洋装店で服飾デザイナー、神戸のアパレル会社で企画の仕事を経て、神戸の

異人館通りのローズガーデンでオートクチュール・ブティックを震災まで経営していました。その後、インターネットのレディース・オーダースーツの店を営みました。人様からは多才と言われたりしますが、自分でやってみたかったです。両親に理解があり好きなことをさせてもらいました。思えば両親や周りの人々のお陰で生きてきました。感謝しかありません。私は、絵の道ではほんの入り口に立っています。私の経験が、これから絵を始められる方の参考になれば幸いです。

終わりにになりましたが、この度、姫路城の前にある三木美術館で10月31日(木)から11月23日(土)まで個展を開催させていただきます(在廊予定日 初日・土・日曜日 11:00～17:00)。当地へお越しになる時は、是非、お立ち寄りください。お会いできますことを心より楽しみにしております。

(水彩画家、服飾デザイナー)

ギャラリー <https://kazuyo-shimamura.jimdofree.com/>

三木美術館 <http://www.miki-m.jp/>

島村和代水彩画展 2024



江井ヶ島より明石海峡大橋展望

風景や花を透明水彩と不透明水彩(ガッシュ)で描いています。この度、個展を開催させていただきます。皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。

2024年10月31日(木)～11月23日(土)

10:00～18:00 入館17:30まで(最終日は16:00まで)

休館日: 月・火曜日(祝日は開館)※入場無料
※作品販売もごさいます。



三木美術館2階 gallery
アートスペース miki

上智大学で学んだ強い問題意識や真の学習の姿勢や方法

高橋 透 (1987年 経・営)



経済学部経営学科1987年卒業の高橋透(たかはしとおる)と申します。私は現在、研究開発、製品・サービス開発、事業戦略などのコンサルティングを行っております。2010年から上智大学経済学部で産業論特講Iを、2014年からグローバル教育センターで非常勤講師を務めさせていただいております。

毎週、大学の門を通るたびに、学生時代のさまざまなことを思い出します。その中でも「東南アジア入門」という講義の3人の先生が強く印象に残っています。3人の先生とは、その後本学学長になられたアンコールワット研究の第一人者である石澤良昭先生、「エビと日本人」でエビ養殖と東南アジアの環境や貧困の問題を研究された村井吉敬先生、解放の神学、仏教の研究で活躍されたルーベン・アビト先生です。当時日本が世界第二位の経済大国になり、その過程で見失われつつあった東南アジアの歴史、文化、貧困・人権問題などを、

各先生の研究の観点で鋭く突いた授業で、とても人気があり立ち見が出るほどでした。東南アジアの実態から自国そして自分自身の存在や役割を考えてみるといった授業でした。3人の先生の研究スタンス、視点の鋭さ、その先にある人間に対する考え方は今でも学ぶべきことが多いと思います。

さて、私はこの15年間非常勤講師として教壇に立たせていただいておりますが、毎回「今日自分は学生のみなさんに、本当の学びが提供できたか?」と悩みます。しかし、先の東南アジア入門の講義を振り返ってみると、先生方は強い問題意識を学生にストレートに投げかけ、ご自身も常に悩み、考え続けておられ、それが私たち学生に強烈に響き、深い学びになっていました。このことから私は、教員や組織のリーダーは、知識やスキルだけでなく、強い問題意識や真の学習の姿勢や方法を周りに伝えるべきではないかと思うようになりました。これが、私自身が上智大学で学んだことで、私の講義でもそうしなければと。

(株)ニューチャーネットワークス 代表取締役、
上智大学 非常勤講師(経済学部、
グローバル教育センター)

Board Members' Reports

役員会だより

● 三輪一夫 (1978年 経・営)

曳山祭の楽しみ

小さい頃から駄菓子屋と氏神様の縁日が好きでした。焼きそば、ソースせんべい、綿あめ、たこ焼き、水に乗った水飴等、今考えると極め付きのジャンクフードばかりでしたが、なつかしい思い出です。秋祭りのお神輿にも欠かさず参加していましたが、小学校高学年あたりから急激に身長が伸び始めたため、自然と足が遠のきました。中腰でしかも肩が痛くなるのですから、面白くなくなったのも無理はありません。

その後、中学高校ぐらいから旅行に目覚めて、休みになると周遊券を使ったバックパッカーをしていました。当時流行していたユースホステルを使って、観光地よりも日本地図のヘリを回るのが得意でした。

そして大学卒業後は家業を継ぐため、名古屋の呉服店で住み込み修業を5年。当時はあたり前だったものの、多分に漏れず今では考えられないような労働環境で、ブラックというより漆黒という言葉がふさわしい所でした。ただ、きものを学ぶには最高のお店で、染物や織物、販売のセオリーを数えきれないほど教えてもらいました。また、ご主人からは「暇があったら美術館や歌舞伎に行き、見る眼を養いなさい」と繰り返し言われていました。

修業を終え父親の元に戻ってから長い年月が流れたある日、ユネスコの世界無形文化遺産に日本各地の曳山(ひきやま=山車)祭りが指定されたという新聞記事を読みました。全33件は北海道以外全国に散らばっており、どれも个性的で美しく、すぐにでも見に行きたいという気持ちが湧いてきました。

日本人は名所や景勝地を3つ選ぶのが好きですが、京都の祇園祭、岐阜の高山祭、滋賀の長浜祭を三大曳山と言うそうです。いずれも山車本体の彫刻と金加工、見送りととも呼ばれる山車側面、後面の豪華な染織刺繍の幕、賑やかなお囃子に合わせた踊りや、歌舞伎の一幕を演じたりと見どころも多くあります。お囃子も様々で、青森のねぶた祭などは聞いているうちにロックやサンバではないかと思うほどの迫力です。

もともと、祭りの起源は五穀豊穡、子孫繁栄を願ったことにあります。後者は言い換えれば出会いの場なので、その昔は何でもありでした。夜目遠目傘の内、徹夜踊りしかり風の盆もしかり。昔も今も人間の



やっていることはそう変わらないと思います。

山車は神が山に降臨することから始まったものですが、それを実感させる興味深い祭りが栃木県的那須烏山市にあります。その名を「山あげ祭」といい、真夏の炎天下、集落の道路に舞台と長唄連の床、背景に木製の巨大な山の模型を複数配置し、歌舞伎を演ずるものです。7月末の猛暑のカンカン照りの下、演じるほうも命懸けなら見るほうも命懸けです。私が見た時は「戻橋(もどりばし)」が演目でしたが、衣装もかつらも常磐津も本物でした。終わると舞台と背景を崩して、次の場所へ移動して再度組み立てて上演することを一日数回繰り返すと聞き、情熱がなければとても成り立たないと頭が下がる思いでした。

曳山祭りの弱点は雨です。貴重な刺繍の幕や、上部に武者などの人形を載せていますので、巡行が雨天中止になることも多く、予定が合わずまた翌年ということもごく普通です。旧盆に開催される四日市の鯨船祭りも、2年続けて台風で行けず、来年に期待している次第です。

先日は、5年に一度開催という曳山、というより曳船の祭りを見てきました。それも、浜沿いの直線道路に井桁状の木枠を敷いて、腕っ節の強い漁師たちが神輿の乗った漁船を揺らしながら引いていくものです。船の装飾がちぎれるぐらいに船を左右に揺らすと、紋付姿で乗っている世話役やお囃子連の首は大丈夫かと心配になるほどです。船底と木枠が摩擦で焦げる匂いが漂う中、軒先ギリギリを疾走するダイナミックさが売り物、それが常陸大津の御船祭です。

岸和田のだんじり同様、長い引綱の先頭は小さな子供たちで、少年、青年になります。船の後ろには赤ちゃんを抱いた若い母親が付いていきます。つまり自然に次の世代への引継ぎを本番で行っているわけで、よく考えてあるなど感心します。

時代が変わり曳山の日程もネットで簡単に調べることができます。華やかな巡行を眺めながらの一杯もよし、帰りの列車で祭りの余韻に浸りながらもよし、どちらも至福のひとつときです。

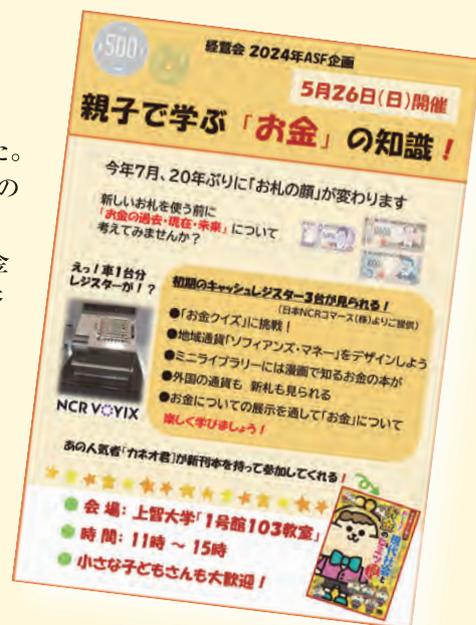
(呉服商)

● 福田順子 (1976年 経・経)

今年のASFは「お金」がテーマ！

恒例のASF (All Sophian's Festival) は、5月26日(日)に開催されました。経鶯会は、7月3日に20年ぶりに新札が発行される年ですので、「お金」の知識を親子で学んでいただくテーマで参加しました。

内容は多岐にわたり、①お金や価格の今昔・未来がわかる情報、②お金にまつわる書籍を集めた「ミニライブラリー」、③海外20か国以上の紙幣やコインの展示、④千両箱、千両小判の展示、⑤日本銀行発行のパンフレット「にちぎんキッズ」の展示、⑥地域通貨「クリン」(北海道栗山町)の情報、⑦初期のキャッシュレジスター3台の展示(日本NCRコマース株の提供)、⑧上智大学通貨「ソフィアンズ」の制作(子ども対象)、⑨『カネオくん』と学ぶ 現代社会とお金のヒミツ(翔泳社)の販売、⑩「お金クイズ」、と、情報や体験満載で、会場の1号館302教室は、展示・体験に訪れていただいた子どもさんや付き添いの大人、卒業生、外部の参加者で、一日中、人出いっばいの賑やかなイベントとなりました。



3歳の子どもから80台のシニアまで、世代ごとの楽しみ方で、250名以上の来場者楽しんでいただきました。

子どもたちに人気は、⑧地域通貨「ソフィアンズ」の制作で、一人何枚もデザインしたり色を塗ったり、目を輝かせながらユニークな通貨を何時間も作成していました。付き添いの親御さんは、誰も「急いで」「そろそろ時間だよ」といった言葉を発することなく、子どもが作成する通貨が完成するまでじっと見ながら待っていらっしゃいました。自分の作品を持ち帰る子どもだけでなく、記念に置いていく子どももいて、楽しい「ソフィアンズ」通貨を経鶯会役員たちも楽しみました。



また、NHKの人気キャラクター「カネオくん」も等身大(120cm)の看板で応援に駆けつけてくれました。一緒に記念写真を撮りたい人がひきも切らず、カネオくんも一日中、大忙しでした。

大人は、お金にまつわる情報や新札のモデルの洪沢栄一氏、津田梅子女史、北里柴三郎博士に関する知識、旧式のキャッシュレジスターの展示などを熱心に見ながら、昔話に花を咲かせていらっしゃいました。

今年のイベントは、外部の企業・団体・自治体(6つの組織)のご協力・ご後援をいただき、経鶯会だけの力ではできないようなバラエティ豊かな内容となりました。感謝します。



今は見る事もないレジェンドの
キャッシュレジスター
(日本NCRコマース株提供)



「ソフィアンズ」通貨の
制作風景



NHKのキャラクター
「カネオくん」も応援に
駆けつけてくれました



定期総会のお知らせ



定期総会を右記の通り、11月16日（土）13時より開催いたします。ご多用とは存じますが、ご出席いただきますようお願い申し上げます。懇親会もぜひご出席ください。懇親会には、経済学部の先生方もご出席予定です。

●ご出席のご連絡は下記まで●

福田順子 jfukuda1308@ybb.ne.jp

（卒年、学科、氏名、連絡先を明記願います。懇親会のご出欠も明記願います。）



●日時●

日時 2024年11月16日（土曜日） 13時～17時

会場 1号館305・306教室

●式次第●

- 13時 ～13時05分 来賓ご挨拶
アガスティン・サリ理事長
- 13時05分～13時35分 講話 「経済学部の今」
経済学部長 竹之内秀行先生
- 13時35分～13時40分 「経鷲会 今後の抱負」
経鷲会会長 百井俊次
- 13時40分～14時10分 総会
事業報告 事業計画 決算報告 予算説明
- 14時10分～15時20分 講演会
「わがBOJ生活と五つの顔（KAO）」（仮題）
中井博司氏（日本銀行OB）
- 15時30分～17時 懇親会
於 ソフィアンズクラブABC会議室

エコノミアン 編集 雑記

『ソフィアの鷲その⑬』

2024年8月に、経鷲会の新ブログサイトがリリースされました。このブログサイト自体は、WordPressが基礎となっており、ソフィア会が、学部・学科の同窓会用に開発したものです。外観、配置、機能などデフォルトとなっていますが、旧ブログサイトより格段にコンテンツが見やすくなっています。

新ブログサイトは、固定ページと投稿ページにより構成されています。固定ページには、ご覧いただきたい項目が常時掲示されます。投稿ページには、お知らせ、活動報告などの投稿記事が新しいものから順番に掲示されます。また、同窓会報エコノミアンの最近のバックナンバーもご覧になれます。

新ブログサイトについては、情報の更新を迅速に行ってまいりますので、会員の皆様におかれましては、定期的にアクセスしていただければと思います。今後は会員の皆様にブログサイトに投稿していただくことも計画しております。

なお、カテゴリーごとに投稿記事をご覧になれますし、検索機能もありますので、ご活用ください。（アクセスは、以下のURLから。ソフィア会ホームページのトップページ「ソフィア会を知る」→「ブロー一覧」→「経済学部同窓会（経鷲会）」からもアクセスできます。）

経鷲会新ブログサイト：

<https://sophiakai.net/economyan>

（編集委員 大武宏至（1978年経・営））



－年会費納入のお願い－

同封の「払込票」にて年会費3,000円の払込をお願い致します。あわせて、寄付金によるご支援・ご協力をお願い申し上げます。会費を納入頂いた方には、母校近辺の風景写真のはがきでお礼を申し上げます。転居による住所の変更やメールアドレスを変更された場合は、上智大学ソフィア会公式Webサイト（<https://www.sophiakai.gr.jp>）の「住所・連絡先変更」から変更の手続きをお願いします。